



研究活動、経済効果 2025年2月3日／No. 64

■ 宮本勝浩 関西大学名誉教授が推定 ■ **2025年バレンタインチョコの経済効果は 約1,011億5,280万円**

このたび関西大学 宮本勝浩名誉教授が、2025年バレンタインチョコの経済効果を計算したところ、約1,011億5,280万円となりました。

宮本名誉教授は、「最近のバレンタインチョコの経済効果は、新型コロナ前の2018年をピークに、その後は新型コロナの影響で減少した。5類移行後、若干の回復を見せたものの、過去の水準には届かず、最近の経済効果は約1,000億円前後で推移しており、この傾向は当分続くものと考えられる。楽しいバレンタインチョコプレゼントの風習が徐々に回復して、日本経済に貢献してほしいと願っている」と述べています。分析結果について、別紙資料にて紹介いたします。

【資料概要】

- 1 テーマ 2025年バレンタインのチョコレートの経済効果
- 2 発表者 関西大学名誉教授 宮本 勝浩
- 3 発表日 2025年2月3日（月）
- 4 内容
 - I. はじめに
 - II. バレンタインチョコの売上
 - III. 誰にバレンタインチョコを渡すか
 - IV. 2025年のバレンタインチョコの経済効果
 - V. バレンタインチョコの経済効果の推移
 - VI. まとめ

以上

※推計方法および分析結果の無断転載・無断転用の防止のため、ウェブサイトには詳細資料を掲載しておりません。報道機関でご入用の方は、関西大学広報課 (kouhou@ml.kandai.jp) まで資料請求くださいますようお願いいたします。

※分析結果からデータなどを引用される場合は、その旨付記してください。

※本発表は報道資料として発表しております。資料提供元との取り決め等により、報道機関以外の方への資料提供は行っておりませんので、ご了承くださいようお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：小林、伊地知、明原

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0007 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ プロフィール <宮本 勝浩(みやもと・かつひろ)>

【生年月日】	1945(昭和20)年1月12日(80歳)	【本籍】	和歌山県
【学歴】	大阪大学 大学院経済学研究科修士課程修了 経済学博士(神戸大学)		
【職歴】	大阪府立大学経済学部教授、経済学部長、副学長歴任後、2006年4月より関西大学大学院会計研究科教授。2015年3月に定年退職し、現在は <u>関西大学名誉教授</u> 。		この間、アメリカ合衆国インディアナ大学、ハーバード大学、上海同済大学、南京理工大学、ロシア極東国立商科大学などの客員研究員や客員教授を歴任
【専門分野】	国際経済学(移行経済論)、理論経済学、関西経済論、スポーツ経済学		
【著書】	『大阪経済学』(共著) 経営書院、『移行経済の理論』中央経済社、『経済効果ってなんだろう?』中央経済社など		
【公職】	(元)財務省財政制度等審議会臨時委員、(元)総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、(元)大阪広域水道企業団経営・事業評価委員会委員長、公益財団法人大阪府市町村振興協会理事、公益信託泉州地域振興基金運営委員会委員長など		
【賞罰】	2019年度和歌山県文化功労賞受賞、2021年度和歌山市文化賞受賞		
【業績】			
2005年	「阪神優勝の経済効果」、「セパ交流戦の経済効果」等を発表		
2006年	「2008年大阪サミット誘致の経済効果」、「ディープインパクトの経済効果」等を発表		
2007年	「世界陸上・大阪大会の経済効果」、「シャープの堺市への液晶工場進出の経済効果」等を発表		
2008年	「東国原英夫宮崎県知事就任以後の宮崎県と東国原知事の経済効果」、「くいだおれ人形の経済波及効果」、「三毛猫たま駅長の経済波及効果」等を発表		
2009年	「WBCの経済波及効果」、「タバコ値上げの経済効果」、「奈良県桜井市の邪馬台国遺跡発見の経済波及効果」等を発表		
2010年	「奈良の大仏の建造費用」、「大阪マラソンの経済波及効果」、「USJ10周年の経済波及効果」等を発表		
2011年	「上野動物園のパンダリーリーとシンシンの経済効果」、「東京ディズニーシー開園10周年の経済効果」等を発表		
2012年	「大阪マラソンの経済波及効果の検証」、「USJ今後10年間の経済波及効果予測」等を発表		
2013年	「あべのハルカスグランドオープンの経済波及効果」、「街コンの経済波及効果」、「東北楽天ゴールデンイーグルス優勝の経済波及効果」等を発表		
2014年	「田中将大投手のヤンキース入団の経済波及効果」、「大阪道頓堀のグリコの新電光看板の経済波及効果」等を発表		
2015年	「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の経済波及効果」、「又吉直樹氏の『火花』の経済効果」等を発表		
2016年	「ネコノミクスの経済効果」、「四国八十八ヶ所お遍路さんの経済効果」、「平成28年夏の甲子園全国高校野球の経済効果」、「SMAP解散で失われる経済効果」、「2016年広島東洋カープ優勝の経済効果」等を発表		
2017年	「2017年WBC優勝の経済効果」、「第89回春の選抜高等学校野球大会の経済効果」、「上野動物園パンダの赤ちゃん誕生の経済効果」、「2017年広島カープ優勝の経済効果」等を発表		
2018年	「せんとくんの経済効果」、「日本のお花見の経済効果」、「イニエスタ選手のヴィッセル神戸入団の経済効果」、「第100回夏の甲子園の経済効果」、「広島カープ優勝の経済効果」等を発表		
2019年	「GW10連休の経済効果」、「埋蔵携帯の総価値額_2019年版」、「インフルエンザによるマイナスの経済効果」等を発表		
2020年	「市民マラソン中止の経済的損失」、「新型コロナの影響により失われるお花見の経済効果」、「第102回夏の甲子園大会中止による経済的損失」、「祇園祭山鉾巡行中止による経済的損失」、「2020年のプロ野球の経済的損失」、「請求書の電子化による経済効果」、「東京五輪の中止・延期・簡素化による経済的損失」等を発表		
2021年	「東京五輪の無観客開催、海外観戦者制限による経済的損失」、「田中将大選手の日本球界復帰による経済効果」、「コロナ禍のネコノミクスとイヌノミクス」、「緊急事態宣言によるGWの関西の観光業界の経済的損失」、「エンゼルス・大谷翔平選手の経済効果」、「埋蔵携帯の価値_2021」、「アスリートを称えるセールの経済効果」、「東京オリンピック・パラリンピックの経済効果と赤字額」、「2020年新型コロナにより失われた訪日外国人の経済効果」、「オリックス優勝による経済効果」、「日本ハムファイターズ・新庄監督の経済効果」、「大谷翔平選手MVPの経済効果」等を発表		
2022年	「恵方巻きをはじめとする『節分の寿司』の経済効果と損失額」、「2022年コロナ禍のネコノミクス」、「2022年お花見の経済効果」、「2022年ゴールデンウィーク旅行の経済効果」、「東京スカイツリー10周年の経済効果」、「2022年祇園祭の経済効果」、「日本経済活性化のカギへ働く世代のビジョンの明確化」、「2022年の大谷翔平選手の経済効果」、「2022年度の市民マラソンの経済効果」、「2022年『ぎふ信長まつり』の経済効果の検証」、「日本ハムファイターズ新球場の経済効果」、「2023年初詣の経済効果」等を発表		
2023年	「バレンタインのチョコレートの経済効果」、「2023WBC優勝の経済効果」、「飛鳥ハーフマラソンの経済効果」、「2023年のお花見の経済効果」、「G7広島サミット2023の経済効果」、「2023年祇園祭の経済効果」、「藤井聰太棋士が八冠を獲得した時の経済効果」、「女性のIT人材増加による経済効果」、「埋蔵携帯の価値_2022」、「2023年花火大会の経済効果」、「阪神タイガース2023年『アレ』の経済効果」、「2023年日本シリーズ関西ダービーの経済効果～阪神対オリックス」、「山本由伸選手の大リーグ入団の経済効果」、「ドジャース移籍による2024年の大谷翔平選手の経済効果」等を発表		
2024年	「2024年の恵方巻き等の経済効果と食品ロス」、「2024年のネコノミクス」、「2024年お花見の経済効果」、「2024年ドジャースにおける大谷選手の経済効果」、「イベントの経済効果と成功・不成功の評価」、「2024年祇園祭の経済効果」、「観光立国日本への再出発～2024年訪日観光客の旅行消費額の推計」、「社会現象としての2024年の大谷選手の経済効果」、「ふるさと納税の経済効果」「曲がり角にきた市民マラソン大会の経済効果」「2025年初詣の経済効果」、「JUNGLIAの開園後15年間の経済波及効果」等を発表		